

平成 2 7 年度

大学院医学系研究科
(博士後期課程)
保健学専攻

学生募集要項

信州大学

信州大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し、大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。

信州大学大学院医学系研究科（博士後期課程）保健学専攻 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

教育・研究の理念

保健学は、人間を精神的、身体的、社会的な側面から、全人的な存在としてとらえ、人々の健康、疾病及び障害について探求する学問です。このため、医療に直接関係する学問だけでなく、社会学、倫理学などの学問との結びつきを通して、個人並びに集団の健康を学際的に探求する科学と考えられています。信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）では、このような学際的な保健学の領域における教育・研究を通して、その成果を社会に還元し、人々の健康支援を行い、積極的に疾病の予防を推進することにより、人類の健康と福祉に貢献することを基本理念とします。

教育・研究上の目標

- （１）保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる人材の養成
- （２）保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に貢献できる教育・研究者の養成
- （３）保健・医療・福祉の現場において、高い倫理感と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる人材の養成
- （４）保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法に関する指導を実践することができる人材の養成

信州大学大学院医学系研究科（博士後期課程）保健学専攻では以下のような学生を求めています。

- （１）保健学の領域において、科学的・倫理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある人
- （２）保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
- （３）保健・医療・福祉の現場において、高い倫理感と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことに意欲のある人
- （４）保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法に関する指導を実践することに意欲のある人

1. 専攻及び募集人員

専 攻	分 野	領 域	学 位	募集人員
保 健 学	生涯保健学	母子保健学	博士 (保健学)	4 人
		成人保健学		
		老年保健学		
	医療生命科学	医療生命科学		

2. 出願資格

医学系研究科博士後期課程の出願資格を有する方は、看護師、助産師、保健師、臨床検査技師、理学療法士又は作業療法士等の資格を持ち、かつ次の各号の一に該当する方とします。

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位を有する方又は平成27年3月までに授与される見込みの方
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された方又は平成27年3月までに授与される見込みの方
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された方又は平成27年3月までに授与される見込みの方
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された方又は平成27年3月までに修了し、授与される見込みの方
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された方
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた方
- (7) 文部科学大臣の指定した者《平成元年文部省告示第118号…【注】参照》
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた方で、平成27年3月31日までに24歳に達する方

【注】文部科学大臣の指定した者とは、次の各号のいずれかに該当する方です。

- 一 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- 二 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

3. 出願資格の審査

『2. 出願資格（6）～（8）』により出願しようとする方は事前に担当係と指導を希望する教員に問い合わせのうえ、次の手続を行い、出願資格の審査を受け、認定された後に出願してください。

（1）出願資格認定申請書類受付

受付期間 平成26年7月7日（月）～平成26年7月11日（金）

受付時間 9時～17時

（郵送の場合は簡易書留郵便とし、受付期間内に必着のこと。）

提出先 〒390-8621 松本市旭3丁目1番1号

信州大学医学部大学院係

(2) 申請書類 (※印は本研究科所定の用紙)

①出願資格 (7) に該当する方

※出願資格認定申請書 (様式 9)	必要事項を記入してください。
※志望理由書(様式 5)	本研究科を志望する理由及び入学後の研究志望の概要を記入してください。
※研究歴証明書(様式 10)	大学, 研究所等において研究に従事した期間を証明するもの
※研究業績目録(様式 11)	学術論文等を別刷又は写しで添付してください。
最終学歴に関する 証明書	卒業証明書 (出身大学 (学部) 長が作成したもの), 成績証明書 (出身大学 (学部) 長が作成し, 厳封したもの)

②出願資格 (6), (8) に該当する方

※出願資格認定申請書 (様式 9)	必要事項を記入してください。
※志望理由書(様式 5)	本研究科を志望する理由及び入学後の研究志望の概要を記入してください。
在職期間等の証明書	在職期間及び職種について, 勤務先の所属長が作成したもの (様式任意)
※研究業績目録(様式 11)	学術論文等を別刷又は写しで添付してください。
学修に関する資料	出身学部のカリキュラムが確認できるもの
最終学歴に関する 証明書	卒業 (修了) 証明書 (出身大学 (学部) 長が作成したもの), 成績証明書 (出身大学 (学部) 長が作成し, 厳封したもの), 出願資格 (6) に該当する方は, 合格証明書 (当該審査における合格基準等の資料を含み, 出身大学 (学部) 長が作成したもの)

(3) 資格審査

出願資格審査は, 提出された申請書類により在学年数, 取得単位等を基に行います。

(4) 結果通知

審査の結果は, 平成 26 年 7 月 18 日 (金) に本人あてに通知書を送付します。出願資格を認定された方は, 出願手続を行ってください。

4. 出願手続

(1) 出願手続期間

平成 26 年 8 月 4 日 (月) ~ 平成 26 年 8 月 8 日 (金)

受付時間 9 時 ~ 17 時

(郵送の場合は簡易書留郵便とし, 出願期間内に必着のこと。)

(2) 出願書類等提出先

〒390-8621 松本市旭 3 丁目 1 番 1 号

信州大学医学部大学院係

(3) 出願方法

「(4) 出願書類等」を一括して郵送又は持参してください。なお, 郵送の場合は, 封筒の表に「大学院博士後期課程保健学専攻入学願書在中」と朱書きし, 必ず簡易書留としてください (出願期間内必着)。出願書類受理後, 受験票を本人あてに送付します (8 月 20 日以降に発送)。

(4) 出願書類等 (※印は本研究科所定の用紙)

※入学志願票 (様式 1)	この募集要項に添付する用紙に記入してください。
※履歴書 (様式 2)	高等学校卒業から現在に至る経歴 (国家試験合格を含む。) を年次に従い、もれなく記入してください。
※受験票・写真票 (様式 3)	写真 (出願日前 3 か月以内に撮影した、縦 4 cm×横 3 cm, 上半身, 無帽, 正面向きのもの) をそれぞれに貼り付けてください。
※受験承諾書 (様式 4)	志望分野・領域の担当教員が作成したものとしします。
※志望理由書 (様式 5)	本研究科を志望する理由及び入学後の研究志望の概要を記入してください。
成績証明書	出身大学 (学部) 長が作成し、厳封した成績証明書 修士課程修了 (見込) 者は、修士課程の成績証明書も提出してください。 (本学医学部・医学系研究科出身者は不要)
卒業証明書	出身大学 (学部) 長が作成したもの (本学医学部・医学系研究科出身者は不要)
修士課程修了 (見込) 証明書	修士課程修了 (見込) 者は、提出してください。 (本学医学系研究科出身者は不要)
※入学検定料納付確認書 (A 票)	① ☐ 入学検定料 30,000 円をこの募集要項に添付する振込依頼書 (C 票) を使用して、平成 26 年 7 月 28 日 (月) から平成 26 年 8 月 8 日 (金) までの間に金融機関から電信扱いで振り込んでください。振込みには、別途振込手数料が必要です。なお、郵便局 (ゆうちょ銀行) からの振込みはできません。また、ATM (現金自動預支払機)、携帯電話及びパソコンからの振込みは行わないでください。 ② 振込み後、納付確認書 (A 票) 及び領収書 (B 票) を受け取り、A 票、B 票の所定欄に金融機関の収納印があることを確認し、納付確認書 (A 票) を提出してください。 また、「取扱金融機関収納印」欄に、平成 26 年 8 月 8 日 (出願期間最終日) までの収納印があるものに限り有効となりますので、特に出願期間最終日に振り込まれる場合には、金融機関の窓口での受付時間を確認のうえ、振込みを行ってください。 ③ 出願期間最終日に持参により提出する方で、金融機関の窓口業務取扱時間内に振込みができなかった方に限り、現金による納付を受け付けます。 * 本学の大学院博士前期課程 (修士課程) を修了見込みの方は、入学検定料は不要です。
※宛名票 (様式 6)	合格通知書等の送付先を記入してください。
※受験票送付用封筒	この募集要項に添付する封筒に郵便番号、住所及び氏名を明記して 82 円分の切手を貼ってください。 (信州大学ホームページから学生募集要項をダウンロードして出願される方は、ご自身で長形 3 号の封筒をご用意ください。)
※受験及び修学承諾書 (様式 7)	官公庁、民間病院等に在職中の方は、勤務先の所属長が作成した受験承諾書を提出してください。 (社会人のみ)
※外国人留学生申請書 (様式 8)	外国人志願者のみ提出してください。
住民票の写し	外国人志願者のみ提出してください。 (市区町村長が発行したもの) 住民票の写しを提出できない場合はパスポート (身分事項のページ) の写しを提出してください。

5. 選抜方法等

入学者の選抜は、筆答試験、面接試問の結果及び出願書類等を総合して行います。

- (1) 筆答試験は、外国語（英語）により行います。なお、辞書（医学用語辞典を含む。）の持ち込みを可とします。ただし、電子辞書及び辞書機能をもつ電子機器類は不可とします。
- (2) 面接試問は、志望する専攻科目について行います。

試験日時・場所

期日	時間	試験科目	試験場
平成26年 9月20日（土）	10:00～11:30	外国語（英語）	信州大学医学部 ※詳細は受験票送付時に通知します。
	13:00～	面接試問	

6. 合格発表

平成26年10月2日（木） 10時

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻掲示板に掲示するとともに、同日中に合格者に対し合格通知書を発送し、公式発表とします。また、信州大学大学院医学系研究科ホームページに合格者の受験番号を発表しますが、必ず合格通知書又は掲示板で確認願います。

なお、電話やメール等での可否のお問い合わせには応じられません。

7. 入学手続

合格者は、次により入学手続を行ってください。なお、詳細については合格通知書に同封してお知らせいたします。

(1) 入学手続期間

平成26年10月3日（金）～平成26年10月10日（金）

受付時間 9時～17時（ただし、土曜日及び日曜日は受け付けません。）

(2) 入学手続場所

信州大学医学部大学院係

(3) 入学料の納入等

①銀行振込により所定の入学料を納入してください。

②既納の入学料は、どのような理由があってもお返しできません。

③入学料・授業料の納入が著しく困難な方には、免除制度、徴収猶予制度及び月割分納制度（授業料のみ）があります。

(4) 手続に当たっての注意事項

入学手続締切期日までに入学手続を完了しない場合は、本学への入学を辞退したものとして取り扱います。

8. 募集要項請求方法

郵送を希望する場合は、封筒の表に「大学院学生募集要項（博士後期課程保健学専攻）請求」と朱書きし、返信用封筒（角形2号（横24cm×縦33.2cm）に250円分の切手を貼って、郵便番号、住所及び氏名を明記）と連絡先（電話番号及びメールアドレス）の記載されたものを入れて、信州大学医学部大学院係（〒390-8621 松本市旭3丁目1番1号）まで請求してください。

9. 注意事項

- (1) 本研究科に入学を希望する方は、あらかじめ志望する研究分野の担当教員と研究内容等について相談のうえ、出願してください。
- (2) 受理した出願書類及び検定料は、どのような理由があってもお返しできません。また、提出後の記入事項の変更は認めません。なお、検定料を誤って二重に振り込んだ場合又は振り込んだが本学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合は、本人の請求により納入された検定料（二重に振り込んだ場合は重複して納入された分）の返還が可能です。返還手続については、本学のホームページ（入試情報／大学院入試／入学検定料返還手続）をご覧ください。
(<http://www.shinshu-u.ac.jp/admission/>)
- (3) 出願手続後、現住所又は緊急連絡先に変更が生じたときは、速やかに信州大学医学部大学院係に連絡してください。

信州大学大学院医学系研究科
〒390-8621 松本市旭 3 丁目 1 番 1 号
電話 (0263) 37-3376 (直通)
信州大学大学院医学系研究科ホームページ
<http://www.shinshu-u.ac.jp/graduate/medicine/>

信州大学大学院医学系研究科（博士後期課程）保健学専攻入学案内

1. 標準修業年限 3年 ※

※ 【長期にわたる教育課程の履修】 学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、最長で6年間、その計画的な履修が認められることがあります。

2. 履修方法

本研究科において3年以上在学し、共通科目4単位(必修)、領域専門科目10単位以上の合計14単位以上を修得します。

3. 学位授与

本研究科において3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けて博士論文の審査及び最終試験に合格した方には、博士（保健学）の学位が授与されます。ただし、優れた研究業績を上げた方については、1年以上在学すれば足りるものとします。

4. 入学料・授業料

入学料 282,000円

授業料 （前期）267,900円 （後期）267,900円

金額は平成26年4月現在のものです。入学時及び在学中に入学料・授業料が改定された場合には、改定時から新入学料・新授業料が適用されます。納付金の額及び納付の方法については、合格通知書に同封しお知らせします。

なお、本学の大学院博士前期課程（修士課程）を修了し、引き続き博士後期課程に進学する方は、入学料を納付する必要はありません。

5. 奨学金制度

日本学生支援機構から大学院学生に対する奨学金制度があります。

貸与額は月額80,000円と122,000円（第一種奨学金 平成26年度）から選択できます。また、この選考は学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等を考慮して行われます。

信州大学大学院医学系研究科(博士後期課程)保健学専攻 研究案内

※ 各メールアドレスの後の「shinshu-u.ac.jp」を省略してあります。

専攻名	分野	領域名	担当教員 メールアドレス	内 容
保 健 学	生 涯 保 健 学	母子保健学	坂口 けさみ ksakagu@	[専門領域] リプロダクティブ・ヘルス看護学 [研究内容] 周産期における安全性と快適性に関する研究を中心に行っている。具体的には、母と子、父と子および親子の絆の形成メカニズムに関する実験的研究や、妊娠・分娩に伴う臨床的排泄機能に関する研究など。
			市川 元基 mtichik@	[専門領域] 小児医学 [研究内容] 小児の発達神経学、神経免疫学に関する研究を行っている。
			金井 誠 makotok@	[専門領域] 周産期医学、地域医療、臨床遺伝 [研究内容] 妊娠高血圧の病態解明と発症予知に関する研究、早産回避の治療に関する研究、地域における産科医療提供体制維持に関する研究、出生前診断に関する研究
			寺田 克 mterada@	[専門領域] 外科学（小児外科） [研究内容] 停留精巣の発生メカニズムに関する研究、胆道閉鎖症女児の周産期における病態生理学的研究
			玉井 眞理子 mtamai@	[専門領域] 臨床心理学、生命倫理学 [研究内容] 周産期における親子関係構築に対する心理的援助、遺伝医療における臨床心理学的介入の実際、出生前診断と中絶をめぐる生命倫理、重症新生児の選択的治療停止問題と生命倫理、ニューロエシックス、ほか生命科学技術関連の倫理問題全般
		成人保健学	松永 保子 ymatsun@	[専門領域] 看護教育学、基礎看護学 [研究内容] 看護ケアの質の向上のために、看護基礎教育及び継続教育における教育方法と評価について探求する。また、クライアントへの教育的支援能力を高めるための教育プログラムの開発から評価までの過程に関する研究を行う。
			本郷 実 hongo@	[専門領域] 循環器内科学、健康科学 [研究内容] 青少年の生活習慣病予防医学・医療、メタボリックシンドローム、心不全、動脈硬化
			山崎 浩司 hryamazaki@	[専門領域] 死生学、医療社会学、質的研究 [研究内容] 地域コミュニティにおける死別者支援、若年配偶者死別、大衆メディアを活用したいのちの教育、がん体験談データベースの構築などについて研究している。
			木村 貞治 tkimura@	[専門領域] スポーツ理学療法、運動学習、虚弱高齢者の運動指導 [研究内容] スポーツ選手に対するスポーツ理学療法の介入効果に関する研究や、その背景にある神経生理学的特性の変化についての研究を行っている。運動学習では、脳の機能的特性に基づいた理学療法の方略についての検討を行っている。虚弱高齢者の運動指導では、継続的な運動指導の在り方やその効果についての研究を行っている。
			百瀬 公人 kmomose@	[専門領域] 運動学、呼吸循環の理学療法、急性期の理学療法 [研究内容] 1) 3次元動作解析装置、筋電図、床反力計、加速度計などを用いた健康者および障害者の動作解析、2) 呼吸・循環器障害の治療における理学療法とその効果、3) 中枢神経系疾患における急性期の理学療法のありかた、4) 理学療法の評価法などに関する研究を行っている。
			Goh Ah Cheng gohac@	[専門領域] 運動器疾患の理学療法、臨床的推論、臨床運動学、物理療法 [研究内容] 物理療法の基礎研究（動物試験）および物理療法の効果（臨床的な研究）の研究を行っている。
			小林 正義 mkobaya@	[専門領域] 精神障害作業療法学、精神障害リハビリテーション学、認知行動科学 [研究内容] 1) 精神障害の早期リハビリテーション・早期作業療法・地域生活支援技術に関する研究、2) 統合失調症とうつ病の認知行動療法に関する研究、3) 自動車運転技能に関連する認知行動評価に関する研究、などを行っている。

保 健 学	生涯保健学	成人保健学	千島 亮 mchishi@	[専門領域] 身体障害領域作業療法学, 支援技術学, リハビリテーション医工学, 生体信号処理・応用, 義肢装具学 [研究内容] 重度神経筋疾患者(児)の生活支援システムの開発と支援プログラムの策定, 意思伝達支援に関わる生体信号応用の可能性の探究, BCI(brain-computer interface)開発を目的とした脳波信号処理・解析に関する基礎研究, 重度障害者の自立生活支援の多角的評価手法の開発や支援機器適応の妥当性の検証
		老年保健学	横川 吉晴 fhakuba@	[専門領域] 健康科学, 公衆衛生学, 高齢者に対する理学療法 [研究内容] 高齢者の障害の発生の遅延, 活動能力の保持を目的として, 農村部を対象として縦断的に調査, 介入を行い, その評価の研究を行っている。
			埴原 秋児 qhaniha@	[専門領域] 老年精神医学, 高次脳機能障害 [研究内容] 大脳損傷に由来する認知障害や行動障害の研究, 医学部附属病院精神科と共同で老人性認知症疾患の治療や鑑別に関する研究, 高齢者の気分障害などの研究を行っている。
			上村 智子 tkamimu@	[専門領域] 作業療法学, 生活支援科学, 高齢者のリハビリテーション [研究内容] 脳卒中や認知症疾患などの加齢性疾患を有する人のリハビリテーションプログラムの開発と標準化の研究を行っている。研究対象は福祉用具や住宅改修と動作学習を組み合わせたプログラムとプログラムの成果評価の開発である。入院・入所から在宅へのスムーズな移行と在宅生活の継続を促すシステム構築に資する研究を行う。
	医療生命科学	医療生命科学	高 昌星 kshosei@	[専門領域] 臨床神経学, 神経免疫学, 神経科学, 血液浄化療法学(アフエレンシス療法), 再生医学 [研究内容] 国際的難病である中枢神経系の自己免疫疾患である多発性硬化症の発症機序を実験的自己免疫性脳脊髄炎(EAE)およびタイラーウイルス誘導による脱髄疾患モデル(TMEV-IDD)を作製することにより, 免疫学・分子生物学的に解明し, これら動物モデル疾患の制御法を開発しており, 臨床応用への開発にも繋げている。
			太田 浩良 hohta@	[専門領域] 診断病理学(消化管病理), 組織化学 [研究内容] ヘリコバクター感染により惹起される消化管粘膜病変の病態解析および消化管粘膜への分化を示す腫瘍(胃腸型腫瘍)の組織発生と診断について, 組織化学的方法論を中心に, 分子生物的方法論等も取り入れ研究を行っている。
			相良 淳二 sagaraj@	[専門領域] 分子腫瘍学, 記憶形成, 自然免疫 [研究内容] 細胞骨格の調節タンパク質は組織形成, 神経可塑性, 遺伝子発現調節, 癌など幅広い生命現象と関係する。当研究室では2003年に細胞骨格調節タンパク質 phactr を発見し, 遺伝子操作などの分子生物学的手法を用いて, その機能解析をおこなっている。現在, 胃や腸の蠕動運動調節と老化による記憶の低下の問題に注目している。
			藤本 圭作 keisaku@	[専門領域] 呼吸機能検査学, 睡眠検査学, 呼吸器内科学 [研究内容] 主に気管支喘息, 慢性閉塞性肺疾患などの閉塞性肺疾患及び睡眠呼吸障害の病態を種々の呼吸機能検査機器, 生体モニタ装置, 画像解析, バイオマーカーを駆使して解明すると共に, 企業との共同研究により新しい生体モニタ及び検査機器の開発・検証を行っている。
			奥村 伸生 nobuoku@	[専門領域] 臨床化学, 遺伝子検査学, 免疫検査学, 臨床検査学 [研究内容] 臨床検査値に異常を来すフィブリノゲン異常症・欠損症において, 機能異常を解明するためにリコンビナントタンパクを作製し, また, 欠損原因を解明するために分子生物学的な方法で研究を行っている。さらに, 医学部附属病院臨床検査部と共同で各種血漿蛋白異常症・欠損症の蛋白検査・遺伝子検査による同定を行っている。
			石田 文宏 fumishi@	[専門領域] 血液病学, 血液検査学 [研究内容] 血液腫瘍性疾患, 特に悪性リンパ腫を対象に, 分子病態を理解し, 診断・治療法の開発に繋げる研究を行う。

保 健 学	医 療 生 命 科 学	医療生命科学	日高 宏哉 hiroyan@	[専門領域] 臨床検査医学(臨床化学), 代謝学(脂質代謝異常) [研究内容] 脂質代謝機序の解明およびリポ蛋白・脂質代謝異常症の分析法の開発と病態解析法の研究を行っている。また, リポ蛋白・脂質代謝検査の臨床栄養や健康診断への有用性評価の研究を行っている。
			羽山 正義 qhayama@	[専門領域] 病理組織検査学, 細胞診検査学, 組織化学 [研究内容] 病理組織細胞診断学における新しい検査法の開発および方法論の研究を行っている。主として腫瘍組織における細胞増殖様式および細胞診検体における細胞形態について共焦点レーザー顕微鏡を用いた3次元解析法の開発に取り組んでいる。
			寺澤 文子 fterasa@	[専門領域] 病態化学検査学 [研究内容] 先天性フィブリノゲン異常症の遺伝子解析および遺伝子操作による正常, 異常フィブリノゲンの発現とその構造・機能解析について研究している。
			齋藤 直人 saitoko@	[専門領域] 整形外科学, リハビリテーション医学, 運動機能生理学, 骨・カルシウム代謝 [研究内容] 1) 整形外科・リハビリテーションの臨床研究 2) ナノバイオテクノロジーによる再生医療研究 3) ナノテクノロジーを用いた新規生体材料の開発 4) 運動機能とそのメカニズムを, 生理学的・生化学的手法を用いて科学的に探求する。
			寺田 信生 nobuot@	[専門領域] 蛋白複合体からみた生体の構造解析;解剖学-組織学-細胞生物学 [研究内容] 細胞の接着やシグナル伝達に関わる, 細胞膜内～膜骨格における構成蛋白を同定する。それら蛋白複合体の, 生体機能を反映した局在や蛋白間の相互関係さらに個体レベルでの機能を検討しながら, 人体における役割を明らかにする。そのために形態学・細胞組織化学・生化学・分子細胞生物学の基本的手技を修得して自由に使えるようにし, さらに顕微鏡によって可視化する解析法の開発も行う。

この募集要項に関する照会先

信州大学医学部大学院係

〒390-8621 長野県松本市旭 3 丁目 1 番 1 号

TEL 0263(37)3376 (直通)

FAX 0263(37)3080

信州大学大学院医学系研究科ホームページ

<http://www.shinshu-u.ac.jp/graduate/medicine/>

※個人情報の利用について

信州大学における入学試験を通して取得した個人情報については、入学試験のほか次の目的のために利用します。

- ① 入学手続
- ② 学籍管理
- ③ 学習指導
- ④ 学生支援関係業務
- ⑤ 入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究

なお、調査・研究及び結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。